

## 平成29年度 長崎県立大村工業高等学校 成果(自己)評価表(職員)

学教目	校育標	真理と正義を愛し、平和的な郷土および国家を担う責任を自覚し、社会の発展に寄与する心身ともに健康な工業技術人を育成する。長崎県教育振興基本計画をもとにして、生徒の実態を把握し、厳しさの中に親切、丁寧な指導に努め、「知・徳・体」の調和のとれた人間形成と実践的な工業人の育成を目指す。また、社会に主体的に関わっていく人材の育成も重要であり、『一芸に秀でる者は多芸に通ず』のことわざが示すとおり、あらゆる教育活動の中で、個々の生徒の優れた一面を見出し育てることで、新たな自信や目標をもたせる生徒指導に全教職員が一丸となって取り組む。
学経方	校営針	『勇猛精進 大村工業 ～みんなで一所懸命～』 これまで築き上げてきた伝統を土台として、目指す生徒の育成に組織的かつ計画的に取り組む。あわせて生徒・保護者・地域・同窓生・教職員が一体となって日本一の学校づくり、生徒づくりを目指す。
前年度の成果と課題		前年度は前期学校評価をもとに分掌・学科・学年の組織評価そして本年度の組織目標に反映させた。全職員の総意のもとに、一致団結して取り組むとともに将来を見据えた目標や具体的対策を常に考える。
本年度重点努力目標		(1) 健全でよりよい生徒の成長を期し、学習と部活動の両立を根幹に据え、心身ともに健全で豊かな人間性の育成に努める。 (2) 一人ひとりの個性を尊重し、工業技術人としての知識や技術を確実に修得させるよう努める。 (3) 自己教育力を高めさせるとともに、思いやりの心を持って人と接する態度の育成に努める。 (4) 常に高い目標意識をもって健全な高校生活を送らせるよう努める。 (5) 奉仕活動や体験的キャリア教育を通じて、社会の一員としての意識を持たせるよう努める。

※次の4～1の評価を、別紙の回答用紙にマークして下さい。

(4:十分達成している 3:おおむね達成している 2:どちらかというと達成されていない 1:ほとんど達成されていない)

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価	H29後期	H29前期	H28	
<b>1 組織運営 教育活動の円滑化、教師集団の協調性に関わる教育的成果の評価</b>								
校務分掌	組織的な活動と運営	分掌内規の再検討と各分掌間の連携を図る。	私たちは各分掌内規の見直しを図っている。	(1)	3.1	2.9	2.7	
			私たちは各分掌間の連携・連絡を密にしている。	(2)	3.0	2.8	2.8	
jm								
学校経営	職員意識の向上	全職員がチームとして、互いに協力・補佐し、生徒の規範意識の向上に努める。	私たちは、正副担任・顧問・教科担任等全職員が連携を強め、生徒のしつけ、問題行動の予防、規範意識の向上を図っている。	(3)	3.0	3.0	3.0	
			私たちは、一人で抱え込まない、悩まない協力体制を築き、お互いを補佐する気持ちを持つようになっている。	(4)	3.0	2.9	3.0	
学年経営	1 学年	基本的な生活習慣を確立させ、大村工業生としての自覚を持たせる。	第1学年では欠席・遅刻・早退がないように、自己管理に努めさせている。	(5)	3.1	3.1	3.2	
			第1学年では正しい整髪服装、ワンストップ挨拶を定着させている。	(6)	2.9	2.9	3.0	
			第1学年では学習活動、各種行事等に熱意を持った態度で取り組むよう促している。	(7)	3.1	3.0	3.0	
			第1学年では真剣に授業に参加する態度を定着させ、基礎学力の向上を図っている。	(8)	3.0	3.0	3.1	
			第1学年では各種資格取得に本気で取り組ませ、達成感、充実感を持たせている。	(9)	3.1	3.0	2.8	
	2 学年	進路について考えさせ、自ら学ぶ意欲と態度を身につけさせる。	第1学年では家庭学習の定着を図り、基礎学力の充実を推進するとともに、各種資格試験にも積極的に取り組ませ、専門学科への興味・関心を持たせている。	(10)	2.7	2.8	3.0	
			第1学年では企業見学会や職業講話・進路ガイダンス等を通し、進路目標を確立させている。	(11)	3.2	2.9	3.2	
			中堅学年としての自覚を持ち、主体的な学校生活を送らせる。	第2学年では挨拶を心がけ、節度と規律のある生活を送らせている。	(12)	3.2	3.0	2.9
			第2学年では学習と部活動の両立を実現させている。	(13)	2.9	2.9	3.2	
			第2学年では行事や特別活動などに積極的に取り組ませている。	(14)	3.3	3.1	2.9	
			第2学年では真剣な態度で授業に取り組ませ、自ら学ぶ姿勢を身につけさせている。	(15)	2.9	2.9	3.2	
3 学年	自己の進路実現に向け、主体的に取り組ませる。	第2学年では沢山の資格試験・検定試験に意欲的に取り組ませている。	(16)	3.2	3.1	2.9		
		第2学年では大人としての礼儀やマナーを習得させ、社会人になるための心構えを持たせている。	(17)	3.1	3.0	3.0		
		第2学年では進路ガイダンスやインターンシップを通して、自信の進路を確立させている。	(18)	3.2	3.1	3.2		
		第3学年では最上級生としての自覚と行動を促し、充実した学校生活を送らせる。	第3学年では挨拶、端正な服装や髪型に心がけ、節度と規律ある学校生活を送らせている。	(19)	3.1	3.0	3.2	
学級経営	各学級目標の設定	第3学年では行事や特別活動などに積極的に取り組ませている。	(20)	3.4	3.3	2.9		
		第3学年では真剣な態度で授業に取り組ませ、自ら学ぶ姿勢を身につけさせている。	(21)	3.0	3.0	3.1		
		第3学年では各種の資格試験・検定試験に意欲的に取り組ませている。	(22)	3.2	3.1	3.0		
		第3学年では集団の中での自己の役割を自覚させている。	(23)	3.0	3.0	3.0		
		第3学年では言葉を大切に、他者を傷つけるような言葉を使わせていない。	(24)	3.0	3.1	3.1		
		私たちは各学級の具体的な目標を設定し、その実現に努めている。	(25)	3.1	3.0	3.1		

※次の4～1の評価を、別紙の回答用紙にマークして下さい。

(4:十分達成している 3:おおむね達成している 2:どちらかというと達成されていない 1:ほとんど達成されていない)

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価	H29後期	H29前期	H28
<b>3 教育活動 教育活動全般における計画的・組織的な教育的成果の評価</b>							
教育課程の編成	教育課程の編成	本校の実態に即した、特色ある教育課程を編成する。	私たちは生徒の多種多様な進路実現に向けた教育課程の編成を検討している。	(26)	3.0	3.1	3.1
	基礎学力の向上	基礎基本の充実。	私たちは基礎・基本を大切に丁寧な授業に努めている。 私たちは家庭学習の確保に取り組み、基礎学力の定着を図っている。	(27) (28)	3.1 2.6	3.1 2.6	3.1 2.6
教科指導	学習意欲の向上	わかる授業の展開。	私たちは周到に準備された教材と板書による充実した授業に努めている。 私たちは個々の疑問・質問にも丁寧な対応をし、成績不振者には早めに対策を行っている。	(29) (30)	3.0 3.2	3.1 3.1	3.0 3.2
	適切な学習評価	評価基準の設定に努める。	私たちは評価項目や基準を適切に設定し、生徒に認識させている。 私たちは個々の生徒の能力・努力が適切に評価されるように努めている。	(31) (32)	3.1 3.1	3.1 3.2	3.0 3.1
	指導力の向上	研究授業などの定着と充実。	私たちは定期的に研究授業・研究協議を実施し、互いの指導力の向上に努めている。	(33)	2.9	2.9	2.7
生徒指導	基本的な生活習慣の育成	生徒の自主性をのばし、規律ある生活態度が樹立できるように積極的に指導する。	私たちは授業や部活動等において、全職員で生徒指導に取り組んでいる。	(34)	3.1	3.1	3.1
	社会規範意識の涵養	自らを集団の一員として自覚し、規範意識の向上に努めさせる。	私たちは諸規則違反はLHRや生徒会活動の中で集団の問題としてとらえさせ、一人ひとりが自分のこととして考えることによって自らの力で解決させているように働きかけている。	(35)	3.0	3.0	3.1
進路指導	適切な進路指導	多種多様な希望の進路実現を目指す。	私たちは進路情報を積極的に提示し、学年ごとに適した進路指導とガイダンスを推進している。	(36)	3.3	3.2	3.2
			私たちは就職・進学内定率100%を目指している。	(37)	3.5	3.6	3.5
特別活動	特別活動	工業高校らしい特色ある取り組みを実践する。	私たちは実践的工業人育成のため、資格取得、インターンシップ、ものづくり教育の推進に努めている。	(38)	3.4	3.4	3.3
	学校行事	効果的な行事の工夫をする。	私たちは授業時数の確保も考慮に入れた、行事の精選を図っている。 私たちは体育祭(や工業祭)などの行事では、自主性を尊重し、工業高校の特性を生かせるよう計画している。	(39) (40)	2.8 3.2	2.9 3.3	2.7 3.3
	部活動	部活動の活性化を目指す。	私たちは顧問間で連携し、目標に向かって積極的に活動している。	(41)	3.3	3.2	3.3
<b>4 教育環境 学校の置かれている条件や環境に関わる教育的成果の評価</b>							
環境整備	明るい学校環境の整備	公共心を育成する。	私たちは毎日の清掃の徹底と公共物を大切にすることを育て、気持ちのよい環境にしている。	(42)	3.0	3.1	3.0
			私たちは教育に必要な施設、設備を整えている。	(43)	3.0	3.1	3.1
情報インフラの設備・実	教育活動全般の情報化	学校便りとホームページを充実させる。 校内LANの利用を促進する。	私たちはHPの更新を定期的に行い、大工日より、進路日より等充実させ、学校の情報を積極的に発信している。	(45)	3.1	3.2	2.8
			私たちは進路情報を教室で検索できるようにしている。	(46)	3.0	3.1	3.0
			私たちは文書の電子化を促進し、業務の効率化を目指している。	(47)	2.9	3.0	2.9
<b>5 開かれた学校づくり 保護者や地域等との連携における教育的成果の評価</b>							
開かれた学校	保護者との連携 地域の人々や関係機関との連携	協力体制を確立する。 地域との連携を推進する。	私たちは保護者との連絡を密にし、生徒・保護者の悩みや相談に丁寧な対応をしている。	(48)	3.1	3.2	3.2
			私たちは公開講座を開催している。	(49)	2.8	3.1	3.0
			私たちは中高連携事業や広報活動を推進している。	(50)	3.1	3.3	3.3
			私たちはボランティア・奉仕活動に取り組んでいる。	(51)	2.7	2.7	2.6
<b>6 生徒の教育成果 学校教育の主たる知・徳・体の三分野からその学校の教育活動全般を通して生徒の教育的成果の評価</b>							
豊かな人間性	タフで思いやりのある心	ルールを守り、困難に打ち勝つ大きな心を持っている。	(52)	2.9	3.0	3.0	
		相手の気持ちになって行動できている。	(53)	2.8	3.0	2.9	
学力の定着・向上	基礎基本の定着	自らの学習目標を設定している。	(54)	2.8	2.7	2.6	
		真剣な態度で学習に取り組んでいる。	(55)	3.0	3.0	2.9	
健康・体力	健康管理 体力の向上	自ら健康管理に努め、清潔安全と健康に配慮している。	(56)	3.0	3.1	3.1	
		健全な生活習慣に努め、基礎体力の向上に努めている。	(57)	3.1	3.1	3.1	